

【第16回年次大会 研究発表 要旨】

ビジネスでの対人関係における距離設定のための言語手段 ——敬語や女性語を中心に

陳朝陽

「留学生30万人計画」は、2020年を目途に日本への30万人の留学生受入れを目指すものである。日本語教育はますます重要な課題になっている。経済産業省と文部科学省は「アジア人財資金構想」という人材育成プログラムを2007年から2013年3月まで行っており、レベルの高いディスカッション力を養成するビジネス日本語教育が要請されている。各大学では、留学生へのビジネス日本語の指導や日本企業への就職支援が強化されつつある。しかし、入社後に役立つビジネス日本語、特に敬語などの待遇表現がいかんビジネスに影響しているのかについては、その基準があまり明確になっていない。中国人留学生の多くは敬語を正しく使うことに強い憧れを持っているし、敬語の学習にも熱心であるが、敬語の使用能力は不十分である。本研究は、ビジネスに有用か否かの視点から日本企業における中国人従業員の敬語回避や女性語の使用状況を考察した上で、日本語教育においてどのように中国人留学生に敬語や女性語を教えるべきかを考えるものである。

まず、2014年9月から11月まで、京都大学経営管理大学院の中国人留学生及び中国国内の日本企業で勤務経験がある中国人を対象に予備調査をし、そこで出た問題を整理して自由記述調査票を作成した。2014年11月末から2015年1月にかけて日本企業で勤務経験のある中国人、現在そこで働いている中国人やその知人に依頼して、研究協力を計15人に増やして本調査をした。方法は、E-メールによる質問紙調査である。調査協力者に以下の質問に答えてもらった。「①ビジネスで意識的に敬語を使わない時はありますか。あればそれはどんな時ですか。②敬語を使わないとどのような効果があるのですか。ビジネスに有利ですか。③ビジネスの中で親しくなって敬語を使わなくなったことがありますか。④付き合いの中で敬語を回避するにはどのような条件が必要ですか。相手との距離を縮めたいとき、敬語を回避する以外にどのような手段がありますか。⑤女性語を使って自分が女性であることを強調して相手と距離を置いたことがありますか」。

以下、得られた回答から代表的なものを示す。「敬語を使わないと、距離を縮め、親近感が感じられ、ビジネスに有利である。他方、悪い印象を与える可能性があり、嫌われる恐れもある」「敬語を使わなくなったことはあるが、全く使わないことはない」「中国人であることを理解してくれる日本人に使わない時がある」「距離を縮める手段は言語以外に沢山ある。場面によって適切な言語を使用するのが大事」「使い間違えると大きな誤解を招いてビジネスに不利である」「取引関係にある相手とは、たとえ親しくなったとしても敬語を使うようにしている」「常に使わない」「同僚、上司とお客さんに対しては常に敬語を使ってわざと使わない時はない」「ただ酒を飲む時女性語を使う」などの回答があった。ここから以下の結論がまとめられる。①基本的には悪い印象を持たれないように意識的に敬語を使う傾向が見られる。使わないケースでは、殆ど無意識的だという人もいるし、意識的に使わない人もいる。使わなくても、相手に悪印象を持たれるとは思わないが、ビジネスにマイナスの影響をもたらす懸念がある。他方、使わないと相手と親しくなれてビジネスに有利だと思う人もいる。②敬語使用は個人差が大きい。いかなる場面でもきちんと敬語を使う女性もいるし、全然敬語を使わない男性のシステムエンジニアもいる。③敬語使用はジェンダーで差があるという発見があった。女性のほうは男性より多く敬語を使う傾向が見ら

れる。④ビジネスで相手との距離を縮めるには、言語以外に様々な手段があり、複数の要素が重なりあっている。⑤女性語は殆ど意識されていない。ビジネスでもあまり使われていない。女性語を使っても、女性であることを対人関係で強調するために用いられているわけではない。

敬語を使うと有利だと主張する人は多く、日本語教育の中では中国人にしっかりとした敬語を教える必要がある。しかし、敬語を全く使わないというケースもあった。個人差があるから、全員に敬語を一律に教える必要があるかどうかは検討の余地がある。今後は、対象者数を増やして調査しないとわからないが、敬語使用調査の場面を同僚の間に限定する場合と、営業で初対面の客に会う必要がある場合とでは、違う結果が得られる可能性がある。対人距離が関係していることから、一律に敬語教育を行おうとすることは非常に難しい。しっかりと敬語の基礎を教えた上で、具体的な場面に即してロールプレーを使って教えることは効果があるかもしれない。女性語はビジネスでもあまり使われていないから、わざわざ女性語を教えなくてもいいだろう。日置(1999)で、女性一般職の場合には女性語の使用が対人距離の操作に用いられていることが示されているが、中国出身者の場合には、敬語は意識されていても、女性語は対人距離の操作には用いられていないといえる。

[参考文献]

- 宮崎里司(1991)「日本語教育と敬語」『世界の日本語教育』1
宇佐美まゆみ(2001)「ポライトネス理論から見た敬意表現」『月刊言語』30(12月号)
宇佐美まゆみ(2002)「ポライトネス理論と対人コミュニケーション研究」『日本語教育通信』
趙嫦虹、吳琚、笠原祥士郎(2004)「日本語中・上級中国人学習者を困らせる日本語の問題点に関する一考察」『北陸大学紀要』第28号
宮岡弥生(2005)「中国語母語話者における日本語習得上の困難点—効果的な敬語教育に関する考察を中心に」『広島経済大学研究論集』第27巻第4号
日置弘一郎(1999)「女性事務補助職の総合的研究」文部省科学研究費補助金成果報告書

(チンチョウヨウ・湖北第二師範学院准教授・京都大学経営管理大学院外国人研究者)